



トピック3

野生動物と生物の多様性

World Sailing (ワールドセーリング)
のサステナビリティ教育プログラム

協賛





World Sailing (ワールドセーリング) のサステナビリティ教育プログラム へようこそ!

World Sailing (ワールドセーリング) は1907年にパリで設立された世界のセーリングスポーツを統括する国際競技連盟です。国際的にセーリングを普及し、オリンピックやパラリンピックのセーリングの競技を管理したり、レースの規則を作って世界中の選手を支援しています。

World Sailing (ワールドセーリング) は、145か国の連盟団体と115クラスの船で構成されており、世界の水域を保護するために協力しながら、セーラーがセーリングへの情熱を分かち合うことを望んでいます。セーリングはよりよい変化とプラスな影響をめざすグローバルな動きのひとつです。あなたも水の上でも実生活の中でも自分の行動を通してその活動の一員になることができます。

これに向けてセーラーを支援するために、World Sailing's Sustainability Agenda 2030 (ワールドセーリングのサステナビリティアジェンダ2030) と呼ばれる計画があります。これは、国連の持続可能な開発目標の12個もの目標達成やセーラーが環境に与えられるプラスの効果の最大化などに対し、セーリング界にどんな変化が必要かを示す計画です。

持続可能な開発目標とは？

国連の持続可能な開発目標は、極度の貧困を止め、2030年までに不平等と不正と戦い、気候変動と戦うために2015年に公表されました。193か国が約束した17の目標があります。トピック3: 野生動物と生物の多様性では、次の目標を達成します。



World Sailing's Sustainability Agenda 2030 (ワールドセーリングのサステナビリティアジェンダ2030)は、IOCのSustainability Strategy (サステナビリティ戦略)の5つの重要分野と同調しています。



インフラと自然利用



調達と原材料マネジメント



労働



移動



気候

トピックス

トピック3の内容:

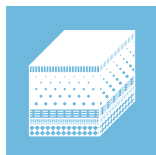
- クジラ類
- 水生植物
- セーリング中の野生生物と植物:
- 船の運航速度
- 船の運航距離
- セーリングのときの行動

トップセーラーになるために役に立つ情報については、World Sailing (ワールドセーリング)の「サステナビリティ教育プログラム」をチェックしてください!

「サステナビリティ教育プログラム」は6つのトピックがあります。

トピック 1	World Sailing (ワールドセーリング)とレースをしましょう!
トピック 2	資源と気候変動
トピック 3	野生動物と生物の多様性
トピック 4	ゴミの削減
トピック 5	オイルと燃料
トピック 6	船の清掃とメンテナンス

用語集



脂肪

海の哺乳類の脂肪。



幼動物

赤ちゃんまたは若い動物。



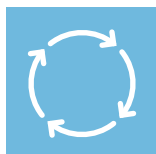
船舶

船または船。



防汚

生物の成長を防ぐための塗料または類似の物質による船体の処理。



海洋旋回

海洋盆地に発生する円形パターンの流れ。



さあ、出発しよう!

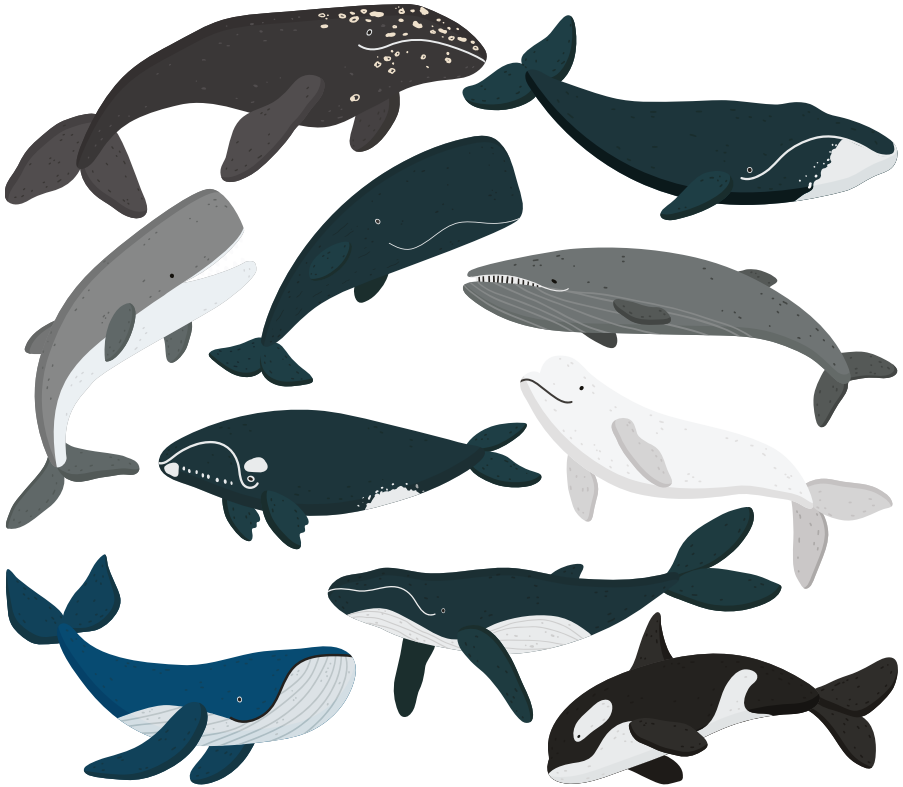


スチュワード

何かを監督または世話する人。



海洋哺乳類



哺乳類とは？哺乳類は、酸素を呼吸する恒温動物であり、背骨を持ち、生涯のある時点で毛が生える動物でのことです。メスの哺乳動物には、乳児に母乳を与える乳腺があります。海洋哺乳類はこれらすべての特徴を持っていますが、水中環境に順応して生きています。水中で速く動くための体型を持ち酸素を蓄える特別な肺と体の体温を暖かく保つための厚い脂肪をまとっています。

哺乳類、爬虫類、魚の間には似ている点と違う点がそれぞれあります。

哺乳類	爬虫類	魚類
空気から酸素を得る	空気と水から酸素を得る	水から酸素を得る
恒温動物	冷血動物	主に冷血動物
背骨がある	背骨がある	背骨がある
毛や髪がある(ほんの少しでも!)	うろこがある	赤ちゃんは自分で自分の世話をする
赤ちゃんは母から母乳を飲む	赤ちゃんは自分で自分の世話をする	マンボウは日光浴が好きで、水面で多くの時間を過ごす
クジラ類はすべての海と世界のいくつかの主要な川にいる	メスが卵を産むために海岸に上がるときを除いてウミガメは一生を海で過ごす	

クジラ類は、クジラ、イルカ、ネズミイルカを含む海洋哺乳類のことです。尾(後肢ではなく)、足ひれ(前腕の代わり)を持ち、毛がほとんどなく、厚い脂肪層によって冷たい水の中でも体温を保てます。クジラ類は空気を吸い込み新鮮な酸素を得るために水面に出てきます。うめき声、ホイッスルのような声、クリックみたいな音、さらには「歌」のような音を使ってお互いに話し合います。



シロナガスクジラ

24-25 m



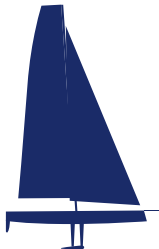
レザーバック
クウミガメ

2.5 m



マンボウ

1.8 m



ヴィーオー・シ
クスティファイブ

20.4 m



エフ・フィフティ
のカタマラン

15 m

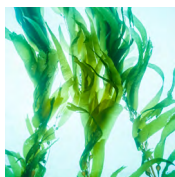


ナクラ・セブ
ンティーン

5.18 m

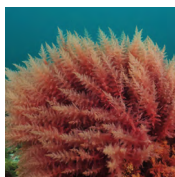
海の下の植物

植物の85%が海に存在していることを知っていましたか？これは、藻類の一種である海藻や根が付いた植物が含まれています。一般的な海洋植物と藻類の例を見てみましょう。



昆布

昆布は通常寒い海にいて岩の多い海岸線に沿って成長する。昆布は、「ホールドファスト」と呼ばれる根のような構造で岩にしっかりとつかまることができます。日光が大好きな世界最大の海藻です。昆布は長さ80メートルまで成長することを知っていましたか？それはシロナガスクジラの3倍の長さです！



紅藻

紅藻は海藻です。暖かく、熱帯の温帯水域に見られます。いくつかの種類は淡水域に生息します。紅藻の一種である海苔(のり)は寿司に使われ、シャンプーやアイスクリームなどの一般的な製品に紅藻の成分が含まれている場合があります。



海草

浅い海を見てみると、海草と呼ばれる根が付いた植物が見えるかもしれません。これは海の酸素化に役立ちます。小動物にとって安全な生息地であり、魚、カニ、ロブスターにとってもおいしい食物が取れるところです！



サルガッサム

この植物は、アオウキクサという名前のほうが知られているかもしれません。ガスが入ったベリーの形みたいな浮き輪を持っているため、海の表面に浮かびます。その結果、太陽に近くなって陸上の植物と同様に太陽からエネルギーを得られるのです！ウミガメは海岸に帰る途中でえさや避難所として使います。北大西洋の海洋旋回には、とても多くのサルガッサムがあります。また、サルガッサムにちなんで名付けられた海もあるよ。その名前はなんと「サルガッソー海」！



外来種と侵入種とは何か？

植物や生き物は、以前に住んでいなかった場所に移動し息する場合、外来種と呼ばれます。侵入種とは、新しい場所に移入し悪影響を与えます。他の生き物が通常食べるすべての食物をとってしまうか、それらを食べる動物にとって有毒である可能性があるためです。

外来種と侵入種 は何が問題？

侵入種は生態系のバランスを変化させます。これはもちろん自然に良いものではありません。植物や動物には色々な種類があることを生物の多様性と呼びます。自然を健全に保つために生物の多様性にバラエティーが重要になります。



セーラーは生物の多 様性に影響を与えら れるのでしょうか？

セーラーは時に、船や道具にたまたま乗ってしまった小さな生き物や卵、そして植物をうっかり動かしてしまうことがあります。船の底で何かが生育していることもたくさんあります。そしてその船が移動し、植物は以前住んでいなかった新しい場所に引っ越ししてしまいますが、これは、他の植物の成長を妨げ、そこに住む動物に害を及ぼす可能性があるため、地域の環境に悪影響を及ぼす可能性があります。





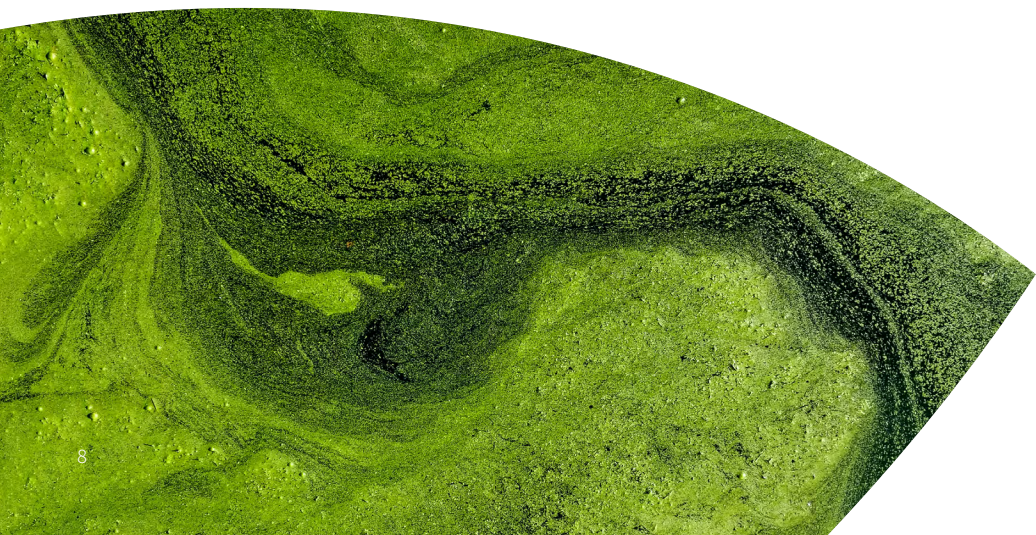
セーラーは生物の多様性を守るために何ができる？

セーリングイベントなどの時に新しい場所に行く前に、船と装備を掃除することは非常に大切なことです。使った後、海水などを洗い流して船を常にきれいにすることも大事です。湖など1か所だけをずっと航行する場合は、それほど大事ではありませんが、船を常に清潔にしておいたほうがいいですよ。

水の花って何？

藻類は、海と淡水に生息する単純な植物のような生物です。水の中の汚染が多すぎるために、コントロール不可能になることがあります。藻類のブルームは有毒で、他の植物、動物、人間が水中の酸素を使い果たしてしまうため、有害な影響を引き起こす可能性があります。農場や庭で使用されている肥料などの流出による栄養汚染は、藻類の繁殖の一つの原因となります。

2008年の中国北京でのオリンピック開催の1か月前には、10,000人以上の人々がオリンピックの帆走場を覆っていた藻類のブルームを除去しなければなりませんでした。13,000平方キロメートル（ジャマイカの面積よりも大きい!）を覆う藻類は、練習ルートをブロックし、競技エリアのほぼ3分の1を覆っていました。



サステイナブルなトップセーラー でいること

...また責任感のあるセーラーとして!

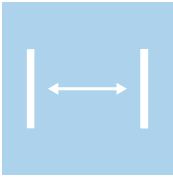
セーラーとしてあなたは海洋の世話をする人であり、海洋を健康に保つ責任があります。海洋の世話をするという事は、海洋の動物や植物を大切にすることを意味します。World Sailing (ワールドセーリング) の環境に優しい行動マニュアルは、海、湖、水路を守るためにやるべき行動を紹介しています。これらの行動は世界的に行われているよい例に合わせてあるので、セーリングする地域に関係なく、従うべきルールややるべき行動を学ぶことができます。

航海中またはエンジン付きのサポート船でセーリングするとき、野生生物にどのように接したらいいかを見よう。

スピードはゆっくり!

- モーター船の場合、クジラ類に近づいているときは、彼らの動く速度より速いスピードを出さない
- 速度や方向の突然の変化を避ける
- クジラ類から100m離れると速度を出来るだけ落とす
- 船は6ノット以下の速度を維持する
- 海草藻場のような浅い場所を通らない。ウミガメはえさをとったりしてそこで多くの時間を過ごしているからです。





距離に気を付けよう!

- クジラ類から少なくとも100 mの距離を保つ
- クジラ類の群れを見た場合、群れを囲まないでずっと後ろに引いて航海しよう
- クジラ類の母と子どもが一緒にいるとき、及び子どもまたは幼動物が一匹だけにいるとき、離れて距離を保つようにしよう
- 自分から動物の近くによらない。彼らが先に近寄ってきたときだけは受け入れてもいい。
- エンジンを搭載した船の中には、クジラ類にとってとても不快な音を出すものがあります。基本的に近寄りすぎないこと。
- クジラ類に近寄る時間を30分以下にする
- クジラ類と一緒に泳いだり、触ったりしないこと



ゴミに気を付けよう!

- 船のゴミを集め、岸に着いたら責任を持ってする
- ゴミを水に投げ込まない。海洋動物はプラスチックのようなものを食べ物と間違えてしまうからだ。
- サンゴ礁に安全な日焼け止めを使って、すでに脅威にさらされているサンゴ礁を有害な化学物質の汚染から守ろう
- 水の中にゴミを見つけたとき、安全な場合は、それを拾い上げて陸上で捨てよう



海の植物の命

航海中に目にする動物には注意しても、植物のことを考えていないことがあります。水生植物と藻類は、魚や他の海洋の生物に食物と住む場所を与えています。海の植物は水生生態系にとってももちろん大切ですが、地球上の酸素の約70%~80%を供給しているので人間の私たちの日常生活にとっても非常に重要なものなのです！

航海中またはエンジンを搭載したサポート船で運航する際、海の植物にどのように接したらいいか見てみよう。

- 適切な場所で船を水に入れたり陸に上げたりして、大事な生息地や植物の命を傷つけないようにする
- 船を錨で止めるときは、海底の損傷を避けるように注意しよう

外来種と侵入種

簡単な手順を覚えておこう → 見る + 洗う + 乾かす

見る: 船または道具に何かが付いているかを確認する

洗う: 船と道具の掃除をする

乾かす: 船を移動する前に乾かそう(卵が湿っている場合、数週間生き続けることがあります!)

- 家族で大型船を使っている場合は、船の底に効果的な防汚確認をして、侵入種および外来種の拡散を防ごう。
- プラスチックは侵入種を運んだりする役割もあるので、ゴミに注意しよう！



参考資料

ワールドセーリングのサステナビリティアジェンダ2030
bit.ly/2sjGrKZ

ワールドセーリングの環境に優しい行動マニュアル
www.sailing.org/32350.php

ワールドセーリングの沖の航海環境ガイドライン
www.sailing.org/about/environment.php#.XYoDzyhKg2w

国際捕鯨委員会
iwc.int/home

アイルランドのクジラとイルカの会
iwdg.ie

植物、藻類、プランクトン
www.nps.gov/subjects/oceans/plants-alga-plankton.html

オリンピックのセーリング会場から藻類を排除する中国のレース
www.theguardian.com/environment/2008/jun/30/pollution.olympicgames2008

写真

ページ 1, 3, 10, 13: © Robert Hajduk/World Sailing



ワールドセーリングの「サステナビリティ教育プログラム」の著作権はクリエイティブコモンズ





World Sailing Trust(ワールドセーリングトラスト)
の協賛によりThe Ocean Race 1973 S.L.
(オーシャンレース 1973 S.L.)との共同制作

協賛



World Sailing
20 Eastbourne Terrace
London W2 6LG

Tel: +44 (0)2039 404 888

www.sailing.org